

私学協会会長賞

お皿洗いの達人

裾野市内中学校

二年 奥仲 さん

朝起きたら、食器棚から取り出したコップに氷を入れ、台所の蛇口をひねって冷たい水を一気に飲みする。これが私の日課だ。

日本は四季に富み、雨に恵まれ、活水が行き届いているので、水不足の問題や、ダムや川が頻繁に決壊してしまうなどの問題が日常的に取り上げられることはない。そのため日本人はとかく水のありがたみを忘れがちだ。しかし、発展途上国をはじめとする諸外国の水事情を知って、私は自分の水への無知さにショックを受けた。たとえばインドでは、牛などの家畜が排せつした川で洗濯をしたり、体を洗ったりする。それだけでなく、それを飲み水としても使っている。衛生状態が非常に悪い。その結果、感染症を引き起こして命を落とす子供が毎日四千人もいるそう。他の国では、水を確保するために、子供が一日中水をくみにいかなければならないそう。当然、その子供たちは学校にも通うことができない。水問題は衛生面の問題だけではなく子供の未来をも奪うことにつながっている。

「水の惑星」と言われる地球だが、私たちが生活のために取水できる量は、地球に存在する水のわずか〇・二パーセントしかない。しかも人口増加や気候変動により、今後世界規模で水不足になることも予想されている。そんな貴重な水を、日本に住む私たちは不自由なく使用できる環境

にある。しかし、自分たちさえ良ければそれで良いはずはない。この環境に感謝しつつ、「水の惑星」に住むみんなが、その恩恵を受けることができるような社会が望ましいのだ。

日本のある企業がアジア・中東・アフリカなどの水が不足している地域で貢献活動をしていることを知った。日本の高い水道技術を伝え、水道や浄水場などの施設を作る。それによって一日に何千万トンもの真水が作り出され、生活用水や飲料用水として使われているのだそう。日本の支援によって少しずつ水に関わる環境が整っていることを誇りに思うと同時に、世界の水問題には私たちにも責任があると感じ、国や企業だけでなく個人でもできることに取り組みべきだと私は考えた。

最近、私は食後に食器洗いを積極的に手伝っている。先日、カレーライスが残されていたお皿と、水が入っていたコップをシンクに重ね、たっぷりの洗剤で洗って水を出しっぱなしにしてゆすいでいた。それを見ていた祖母が、「ああもつたいない。私の洗い方を見てご覧なさい。」と言って、油物のカレー皿と、水しかついでいなかったコップを分けた。カレー皿はまず古新聞で残っていたカレーをきれいにふき取り、洗剤をつけたスポンジで洗って水をためた桶に浸していく。それで洗剤の泡は落ちる。コップは油物ではないのでたっぷりの洗剤は必要ない。最後、全部のお

皿やコップをさっと水洗いして終了。この方法だと、油物とそうでないものを一緒に大量の洗剤で洗い、出しっぱなしの流水で流すのと比べて、使う水の量が三分の一まで減少する。さらに、洗剤の使用量も半分減るのだ。これは上水のみならず、下水のクリーン化にもつながる。

この方法は歯磨きやシャワーの際の水の出しっぱなしにも応用できると気づいた。歯磨きのすぎ用の水はコップにため、体についた泡はお風呂にためたお湯で流して最後にシャワーでさっとすすぐ。これを徹底的に家族で行ったところ、一か月の水道料金が前月に比べて四十パーセントも削減できた。これは金額の問題ではなくて、使う水を節約できたと言っているだろう。我が家の小さな節約活動ではあるが、多くの人が心がけていれば、想像もつかないほどの水が節約できるはずだ。

同じ「水の惑星」に住む人々が平等にその恩恵を受けられる世界になるために、まず私はお皿洗いの達人になることを決意した。そんな今朝の水は、いつもより特別な味でした。